川北のひろば 日本共産党の見解を紹介します。
2018年号外　発行 日本共産党川崎北部地区委員会　連絡先 川崎市多摩区西生田1-13-1　電話 044-281-3501

赤石ひろ子

党 多摩区市政対策委員長
あかいし 博子

格差をなくし
誰もが明るく

豊かに
暮らせる
川崎へ

日本共産党

ジャーナリストの視点で市政にいどむ

プロフィール
1961年1月18日生まれ　57歳。多摩区東生田1丁目在住。群馬県みどり市出身。群馬県立前橋女子高校、立教大学文学部日本文学科卒。雑誌編集者32年。NHK『今日の健康』などの編集にたずさわる。家族は子ども1人。趣味：民舞、料理、中野島の太鼓クラブで13年間活動。

Hiroko Akaishi

福祉と防災を最優先に市民の願いを必ず市政へ

「働き方改革」をはじめ、社会保障の切り下げ、消費税増税、「憲法9条改悪」など、この国の暮らしと平和を根幹から揺さぶる国政のなか、川崎市でも暮らしにくさや将来への不安の声を実感しています。若者の非正規雇用や子どもの貧困など、格差社会を助長する諸問題への対策は急務、高齢者福祉や子育て支援もまだまだ不十分です。洪水や地震など、大災害に備えた防災対策への要望も高まっています。

川崎市の豊かな財政は大規模開発ではなく、何よりも市民のために使われるべきです。

30年以上メディアを通して培った視点を生かして、新しい発想の取り組みにも挑戦していきたいと思っています。そして、多摩区の子ども、若者、働き盛り、高齢者、障がい者、女性、すべての人たちが互いを認め合い、支え合える、楽しくにぎやかな街、温かい街づくりのために力を尽くしたいと思います。5期20年、地元の信頼を集めてきた斉藤たかし議員が作り上げてきたものを、受け継ぎ、発展させていきたいと思います。

赤石ひろ子

赤石ひろ子さんを推薦します

小林 愛子（新日本婦人の会）
古谷 操（多摩区建友会 会長）
植野 吉一
（多摩･麻生民主商工会 会長）
田代 浩一（元登戸小学校教員）
田嶋 郁雄
（登戸バプテスト教会牧師）
小野寺 サワ子
（年金者組合世話人、
医療生協久地診療所元看護師）

アンテナの高さに期待

藤原 司
（前川崎市老人クラブ連合会 会長）

私の高校教師時代の教え子である斉藤たかし君が市議を勇退するという。残念な気もするが、健康上のこともあると聞いた。その判断を良しとしよう。斉藤君からバトンを受けた赤石ひろ子さん。一度お会いしたが、聡明で庶民的な方とお見受けした。雑誌編集者として培ったアンテナの高さに期待したい。安倍内閣の福祉切り捨ての悪政に対して、自治体は防波堤になってもらいたい。斉藤君の実績を受け継ぎながら、赤石さんらしい視点で市政に挑戦してほしい。

温かく豊かな市政のために

堀田 瑞枝
（一般社団法人WEF理事）

赤石ひろ子さんとは、私が編集長を務めていた出版社で20年近く一緒に雑誌を作りました。素晴らしい編集力でしっかりサポートしていただき、尊敬できる部下として感謝し続けてきました。1人で息子さんを育てながら、残業や休日出勤が多い仕事にも積極的に加わり、上質な誌面作りに常に前向きでした。著名な作家担当のときにも、その誠意ある仕事ぶりと気力に、信頼できる編集者とほめていただきました。これからも川崎市民のために、これまでのような新しい提案などで、温かで豊かな市政のために頑張っていただきたいと、ご活躍を祈念しております。

皆様に支えられ5期20年議員活動を続けることができましたが、健康のこともあり今期限りで市議を退く決意をいたしました。

幸い赤石ひろ子さんが、私と、私を支えていただいたすべての皆様の期待と願いを受け継ぎ、市政に取り組んでくれることになりました。長年ジャーナリストとして活躍され見識豊か、人生経験も豊富な方です。この間一緒に行動しても即戦力だと確信しています。

私も健康の許す限り全力で赤石さんの取り組みを支援していくつもりです。

川崎市議会議員　斉藤 たかし

川崎市で取り組みたい あんなこと、こんなこと。

登戸研究所

◆川崎を平和教育の旗手へ

明治大学に資料館がある登戸研究所は、戦争中、陸軍によってつくられた施設で、秘密戦の研究をしていました。川崎にある貴重な戦争遺跡なのに市は一切お金を出していません。市民や子どもたちに平和の大切さを伝えるためにも、戦争遺跡としての存在を全国にも発信させます。

◆どの子にも豊かな教育環境を

「すべての子どもが差別なく、自信を持って生きられる社会に」が、私の信条です。いま、学校現場は先生にも子どもにもゆとりがなくなっていると感じます。障がい児教育においては、専門知識を持つ教職員の育成、増員、特別支援学校の増設や卒業後の自立支援アカデミーの設立を、普通教育の場では少人数学級、給付型奨学金を増やす取り組みなどを進めます。そして、すべての子どもに中学3年生までの医療費無料化、小学校給食の無償化の実現にも全力を挙げます。

◆先進的な高齢者福祉都市へ

川崎市の特別養護老人ホーム（特養）の待機者は3500人以上です

◆区画整理事業の推進

登戸地区ではいま、斉藤たかし議員が長年取り組んできた区画整理事業が進められています。地権者、借家権者の権利を守り、住民の皆さんの納得と合意のもとで魅力あるまちづくりをすすめるために尽力し、一日も早い事業完成を目指したいと思います。

活動地域　宿河原、堰、長尾、東生田、登戸、登戸新町、生田1〜3丁目、枡形、東三田、三田、長沢1・2丁目、中野島、布田

（2018年4月現在）。年を重ねても、身体が不自由になっても元気で豊かに暮らせる。それがその国の文化度を表していると思います。多摩区においても特養ホームの新設は急務です。国保料の引き下げ、介護保険料、利用料の減免も進めましょう。

◆都市農業を元気に

日本の食料自給率はわずか38パーセント。日本の農業は危機的な状況に陥っています。多摩区で都市農業を営む方々への直接支援を充実させ、農業生産に生きがいが持てる川崎を目指します。そして、市民に安全で新鮮な野菜や果物を安定的に供給していくための流通システムや農家と市民をつなぐネットワーク構築などにも前向きに取り組みたいと思います。農業を元気にすることは緑地保全にも効果があると考えています。

◆街に多目的スペースを

多摩区では多くの商店街がイベントに取り組んでいます。川崎市の商店街イベント事業への補助金を抜本的に増額させ、ランク付けはやめさせます。個性的で魅力あるまちづくりを支援するとともに、町会や子ども会、市民団体などが、スポーツや文化活動のために気軽に利用できる多目的スペースやコミュニティの場を増やしていきたいと思います。

◆防災に強い川崎を作る

大きな地震や集中豪雨はいまや、日本のどこで起こっても不思議ではありません。川崎市でも防災対策を急ぎ、万全にしていく必要があります。さらに精度の高いハザードマップの制作、全戸配布とともに、それぞれの災害に応じた避難方法や避難所の周知徹底、避難訓練などを推進していきます。また、防災の観点からも生田浄水場の復活に力を注ぎます。

…… こんなヒト。

❖かかあ天下とからっ風の上州生まれ

私は群馬県の小さな農村（笠懸町、現みどり市）で生まれました。実家は農家で、養蚕や野菜、果樹栽培を営んでいました。幼いころの遊び場は畑や水田の畦道で、妹弟や幼馴じみと小川で魚をとったり、草花を摘んだり。夏は雷雨、冬は赤城山から吹き下ろすからっ風。美しくもあり、厳しくもある四季折々の自然の風景が、私の感性を刺激し、育んでくれたと思います。

母、妹弟たちと

❖演劇に熱中した青春時代

中学、高校、大学とずっと演劇部に所属していました。私は演劇に出会うまでは、引っ込み思案でおとなしい子でした。しかし『森は生きている』のミュージカルを観て、その躍動感、ライブ感に魅了され、それ以降、自分が演じる側になっていきました。ステージは役者だけでなく、演出をはじめ舞台装置、効果、照明などじつに様々な人たちが力を合わせて作られます。それは理想的な社会の姿にも似ていると思っています。

❖編集の仕事にかかわり32年

私はこれまでずっと、編集者として生きてきました。一番長くかかわったのが子どものファッション誌です。「子どものたちの豊かな感性と健やかな成長を応援したい」。その一心で誌面づくりに取り組み、とりわけ、子どもの食や健康、教育、アートなど、文化的なページに力を注いできました。少子高齢化で子育ても様変わりしましたが、これからも形を変えて子どもたちにエールを送り続けたいと思います。

職場にて

❖日本共産党へ

仕事的には共産党との接点はあまりありませんでした。でも、2014年、安倍政権が集団的自衛権の行使を可能とした閣議決定をしてからは、政治の流れが自分の想いとは全く違うところに行こうとしている、これは絶対見過ごせないと思っていました。そのころ地域の信頼できる方に誘われ入党しました。

戦前から命を懸けて反戦と民主主義を貫いた共産党は尊敬していましたし、高校演劇部の顧問の先生だったり、二人の叔父だったり、私の人生の節々に共産党と党員がいました。

❖和太鼓・民舞が生きる力

趣味として和太鼓や民舞に触れて十数年になります。私がこれらに心惹かれるのは、市民が主役の芸能であること。日本人が長年築き上げてきたすばらしい伝統文化であること。また、その喜びを祭りなどの場で大勢の人と共有できることです。

そして私は、多くの太鼓や民舞の仲間に励まされ生きてきました。文化芸術の継承、発展のなかにも、私たち

赤石ひろ子は

文化を大事にする人

玉田 菅雄
（和太鼓指導、中野島在住）

赤石ひろ子さんとは和太鼓を通しての知り合いです。赤石さんは何事にも積極的に取り組む人で、世話役も引き受けチームになくてはならない人です。和太鼓はもちろん、とくに踊りへの情熱は感心するばかりです。市政にとりくむと聞いて正直驚きましたが、赤石さんの生い立ちや生き方を知るにつけ、この人なら安心して私たちの願いを託せるな！　と確信しました。文化を大事にする人は、人そして地域を大事にする人です。ぜひとも活躍してほしいと思います。

正義感と行動力を信頼

中村 のん
（スタイリスト・エッセイスト）

子ども向けファッション誌の編集者として30年間、子どもに関する情報をいち早くキャッチし、発信し続けながら障がいのある息子さんを20年間育ててこられた赤石ひろ子さん。このようなキャリアの中で、今の社会の中にある多くの矛盾をリアルに感じてこられたと聞いています。長年にわたって赤石さんと仕事をしてきた立場から、また、3人の子を育ててきた立場から、赤石さんの正義感と行動力を心から信頼し、期待をもって応援します。

庶民の芸能、民舞に興じて

が豊かに生きるヒントがたくさんあると思っています。

❖障がいのある子とともに

私の息子は知的障がいを持っています。私は、彼を育てることで、多くのことを学びました。それは障がいのある子どもの立場や目線でモノゴトに向き合い、考え、行動すること。そして、周りで支えてくれる人たちの温かさです。「人はだれでもキラリと輝く何かを持っている」。それは、障がい者だけでなくすべての人に通じることです。子ども、高齢者、女性、LGBTなど、様々な悩みや困難を抱えている人たちも楽しく生きられる社会が私の理想です。

息子と和太鼓コンサートにて

Hiroko Akaish

赤石ひろ子 10のお約束

① 所得制限なしで中学3年生まで医療費を無料化。
② 認可保育園を増やし、保育環境の向上を。
③ 教職員を増員し、少人数学級をめざします。
④ いのちの水がめ、生田浄水場の復活を。
⑤ 登戸土地区画整理事業を、住民本位ですみやかに。
⑥ 地域の文化活動を活発にして商店街ににぎわいを。
⑦ バス路線の拡充など、地域交通の利便性向上をめざします。
⑧ 小田急線の地下二層・複々線化で混雑緩和を。
⑨ 多摩区に特別養護老人ホームの新設を求めます。
⑩ 高齢者、障がい者の雇用機会の拡大に取り組みます。

市政でも、国政でも

だから、いま、日本共産党。

参議院・神奈川
あさか 由香
党県雇用・子育て相談室長
（浅賀 ゆか）

参議院・比例
しいば かずゆき
党中央委員
（椎葉 寿幸）

あなたの願いを 託してください!!

戦争NO!
まもろう憲法9条!

日本共産党は党創立からいままで、「戦争反対」「平和的解決」の姿勢をブレずに貫いてきた唯一の政党です。安倍政権がねらう9条改憲をやめさせ、戦争しないニッポンをまもりぬきます。

財界中心から
国民が主人公の政治へ

大企業だけが潤う大型開発はストップ！過労死を増やす「働き方改革」、社会保障の切り捨て、消費税10%増税。国民を苦しめる悪政阻止に向けて、日本共産党は市民と野党の共同をひろげ、全力を挙げます。